

寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川 9 8 3

高野山真言宗 荒瀬山 寿楽院

住職 高橋 敬行

電話 048-584-0302

灌仏会 (かんぶつえ)

釈迦は紀元前四六三年？三三三年の生誕の説あり。釈迦は現在のネパール国境付近のカピラヴァストウで、国家を形成していた釈迦族の出身である。釈迦の故郷であるこのカピラヴァストウは今のネパールのタライ地方の小さな共和制の国で、当時の二大強国マガタとコーサラの間にはさまれた国であった。家柄は王とよばれる名門であった。このカピラヴァストウ国の城主、シュッドーダナを父とし、隣国の同じ釈迦族のコーリヤの執政アヌシャーカーの娘・マヤーを母として生まれ、ガウタマ・シッタールタと名づけられた。ガウタマ(ゴータマ)は「最上の牛」を意味する言葉で、シッタールタは「目的を達したものだ」という意味である。ガウタマは母親がお産のために実家へ帰りする途中、ルンビニの花園で休んだ時に誕生した。生後一週間で母のマヤーは亡くなり、その後は母の妹、マハープラジャパティによって育てられた。

「釈迦は、産まれた途端、七歩歩いて右手で天を指し左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と話した」と伝えられている。釈迦はシュッドーダナらの期待を一身に集め、二つの専用宮殿や贅沢な衣服・世話係・教師などを与えられ、クシャトリアの教養と体力を身につけた、多感でしかも聡明な立派な青年として育った。十六歳で母方の従妹のヤシヨダーと結婚し、一子、ラーフラをもうけた。等の伝説がある。



大事 (だいじ)

「大事な品物」、「大事な用件」、「大事な人」と日常口にする。「大事」、または「一大事」とは、もとは、さまさまの仏が人々を救済するために世に出現することを言う。

我々の立場からは、出現した仏に出会うこと、仏道に志すこと、修行して悟りを開くこと、さらには自らの生き方を発見すること、何が自分にとって一番大切なことであるかを見いだすこと、自分の一生をそれにかけてよいということに出会うこと、これが本来の大事である。

仏教が生んだ日本語

4月8日は花祭り



釈迦の誕生仏に甘茶を注ぐ



一般に花祭りという

「灌仏会」には、甘露を産湯としたという故事にない、釈迦の誕生仏に甘茶をかけて祝う。甘茶を持ち帰って飲んだり、この甘茶に墨をまぜて、雷除けや害虫駆除にははるとい風習もある。

空海の言葉 シリーズ

いちじん だいごく たこ
 一塵、大嶽を崇うし、
 いってき こうかい ふこ
 一滴、広海を深うす
 ●●●塵も積もれば山となり、水も溜まれば海となる

弘法さんはどうしてこんなことをいわれたのでしょうか。承和元年(八三四)八月、高野山に二基の大塔を建てるときに、弘法さんは全国の施主に勧進する文をつくりました。勧進というのは、お寺を建てたり仏像をつくったりするときに、金品を寄進してくれるよう施主に対して勧誘することです。それで思い当たることがあります。『五木の子守歌』という歌があります。そのなかに、「おどまかんじんかんじん……」という歌詞があります。その意味が、「かんじん」は、「勧進」のことです。ういえば弁慶の『勧進帳』も、寺を建てるために全国を巡って寄付を集める内容のものでした。

しかし、「おどまかんじん」のほうは、そんな高尚な目的ではなく、お貰い乞食のような感じがします。このお貰いさんは、きつと最初は寺を建てるため、という目的をもっていったのでしょうか、いつのまにか「食べるため」の勧進になつてしまったのでしょうか。

弘法さんは、気持ちが悪く流れることを厳しく戒めて、こうおっしゃっています。

「大きな目的をもって、施主に対して、大金を求めるな！ 一円の寄付でもありがたうお受けしろ。それがやがて大きな山や大海になるのだ」と

